

第 3 回 環 境 プ ラ ザ 懇 談 会

発言された方のお名前がわからなかった場合は「参加者」と表記させていただきました。

司会者 懇談会を始めたいと思います。

環境活動推進課長の宮田と申します。今日司会しますので、ひとつよろしく願いいたします。

それでは、まず最初に、原田部長からごあいさつをいただきます。

原田部長 皆さん、おばんでございます。環境活動担当部長の原田でございます。お忙しいところ、この懇談会にお集まりいただきましてありがとうございます。

今、宮田課長の方から3回目というお話しがありましたけれども、3月に意見交換会を一番初めにやりましたので、それをふまえると、このような話し合いというのは、今日で4回目を迎えます。前回の懇談会の席上で、皆さんの方から、どうやって市民に声をかけているのだと、声のかけ方の工夫がもっと必要ではないかという御指摘をいただきました。

それから、次に懇談会を開催する時には、皆さんにあらかじめテーマを知らせてほしいと。結果的にそれが変わってしまっても構わないから、そういったものもあらかじめ知らせてほしいというようなお話がありました。今回は、そのように準備を進めさせていただきました。今回は初めて来られた方もおられるのではないかと思いますので、この懇談会の趣旨を改めてお話をさせていただきたいと思います。

この環境プラザというのは、市民の方が情報交換をしながら、いろいろな環境保全活動がなされることを期待してつくられたものでございます。特にお子さんや、あまり環境に関心のなかった人に環境問題への理解を深めていただいて、行動を起こしてもらうことを期待しているのです。そのためにどのような環境情報を集めたらいいか、またどのような事業をしたら効果があるかを市民の皆さんと話し合っ、これはいいというものを決定し、決めたら年度の途中でも実施できるようにしたいと、そんな事業の進め方ができればと考えています。

実は、この思いで予算要求もしてきたのですが、残念ながら今年度はそのような形で予算がついているわけではありません。それが今の実情であります。それでも、この環境プラザの事業というのは、市民の皆さんの声や要望が形になっていかないと、本当の意味でいいものにはならないと思っています。それが私たちスタッフの考え方でありまして、このような懇談会の場を通して話し合いをさせていただいています。皆さんがこれをやるべきだ、あるいはやりたいというものを、なるべくできるように努力をしたいと思っていますし、また予算要求もして実現をしていきたいと考えてます。

懇談会も大分会を重ねてまいりましたので、そろそろ具体的なアイデアを出し合っ

論することも進めていきたいと思っておりますけれども、市の実情を正しく知っていただくということも必要でありますし、また私たちが皆さんの声を率直に受けとめていきたいと考えております。ですので、わからないことはすぐそのように言っていただいで理解を深めることも必要ですし、お互いに、そのような気持ちを持って進めていければと思っております。ぜひよろしく申し上げます。

ありがとうございます。

司会者 どうもありがとうございます。

それでは、今日初めて来られる方もいると思います。ずっと続けてこられる方には、おさらいの意味で聞いていただきたいと思うのですが、まず今日はこの懇談会の趣旨、特にこの環境プラザの運営のあり方を趣旨に懇談会を開催しているわけなのですが、その部分をもう一度改めて説明させていただきます。

それと、その後で1回目、2回目にどのような話があったか、もう一度おさらいをしてみたいと思います。ちょうど資料の1番目と2番目になります。順序は資料の2番目の横の紙の方から説明いたします。

事務局 環境プラザ担当の係長をしております、濱谷と申します。今日はお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

それでは、最初に環境プラザの運営の考え方を。1回目、2回目、3回目、会を重ねていく中で再度確認という意味で、また、新しく来られた方もいらっしゃると思いますので、説明をしたいと思います。

私ども環境プラザの方で、実は市の課題という形で、3年をめどに委託をしていきなさいと言われておりました。そのような関係から、今後環境プラザの運営をどのような形で進めていくのがよいのかを考える場面を持たなければならないことから、3月に一度意見交換会という形で持ったのですが、プラザが立ち上がりまして、7月に第1回目の懇談会を持ちました。

私ども札幌市の方で委託をしていくといいましても、どのような形で運営をし、委託を捉えていけばいいのか、環境プラザが市民の皆様方と一緒に作り上げていく施設という性格もありますので、市民の皆さんと考えていく場を持たらと思ひ、懇談会という形で今続けています。

運営形態について最初に資料2という形で皆さんにお示ししました。運営の中にも業務という部分と、あと実際の施設を管理していく運営組織、2つのことを捉えていかなければならないのだろうかと考えました。

そこで、平成15年度につきましては、まず業務運営という見方、その業務運営を一応3つに分けているのですが、このような業務の捉え方から、組織という選択肢が考えられないだろうかということで、下にありますように1から5までの、このような選択肢が、様々な業務の組み合わせによっては出てくるのではないだろうかと考え、まず案という形でお示ししました。このとおりに進むと決まっているのではなくて、まずたたき

台として、このようなことが想定されるだろうということでお示ししました。これが、まず今年度共通認識を確立することを目標に話を進めていく上での基本的な考え方として、この提案をさせていただきます。

後程懇談会の1回目、2回目でのどのような話し合いをしたかを説明させていただきますが、私ども環境プラザの方で実際に実施している事業について等、事業費の話を含めて、まず業務の内容を知っていただきたく思ひまして、こちらの方で示しております。

一応3年間を目処にという形をとっています。今年につきましては、共通認識をある程度つくり、いろいろあがったものを皆さんの意見を交えながら収束していき、16年度に合意形成をしていきたいと考えています。そこで合意形成とれましたら、平成17年度には新たな運営の開始ということで、18年度に向けて様々な準備をしなければならないのではないだろうかと考え、その期間として一年間という捉え方をしています。

あくまでも3年間、18年度に新たな運営の開始をしていきたいという考え方をしているのですが、やはり皆さんといろいろな話し合いをさせていただいて、どういう方向でプラザが今後皆さんに御利用いただけるか、あと環境学習や教育の拠点としての機能を発揮できるかを含めて考えていくことが必要だと思っています。ただ、行政組織としても、環境プラザが先に話しましたような市の課題として、財政状況や、市長の市政方針等でやはり皆様方と連携、協働型の姿を目指していきなさいという様々な行政的な目標もございますので、そのような部分を捉えていただきながら、まず考え方ということで提案をさせていただきます。

経緯については、以上です。

司会者 それでは、続けて1回目と2回目の会議について。

事務局 皆さんこんばんは。環境プラザ職員の渡邊と申します。私の方から、第1回、第2回の環境プラザ懇談会について、簡単にですが、説明させていただきます。お手元の資料1をご覧ください。

環境プラザのオープンが9月1日なのですが、オープン前の7月23日に第1回懇談会が行われました。その第1回懇談会では、まず環境プラザに関する報告事項を説明させていただきました。オープンにあたって、オープニングイベントを予定しておりまして、それについての御報告、市民と市で構成された実行委員会で準備しているオープニングイベントの内容について説明させていただきました。

また、オープンにあたって、環境プラザの周知用のパンフレットを作成していることについても報告させていただきました。

また、今年3月に管理運営に関する意見交換会が行われたのですが、その時に申しおりましたことと変更になった点、情報センターにおける本との関係なのですが、それについての変更点について報告させていただきました。

また、懇談会の開催目的について説明させていただきました。

この懇談会は、先程説明したとおり、環境プラザの運営のあり方をこの場で話し合っ

市民と私たちと皆様で運営に関して共通の認識をもちたいという思いから、懇談会を開催しております。

また、環境プラザの15年度の予算について、あと業務について説明させていただきました。この予算に関して、要求額に比べ実際におりた予算が半分以下となってしまったのですが、これは皆様にこの環境プラザの現状について知っていただきたいという考えから説明させていただきました。

また、環境プラザの運営の考え方について御説明をさせていただきました。これに関しましては、先程説明があったので省略させていただきます。

次に、その第1回懇談会の意見交換の内容について、簡単に御説明させていただきます。

まず、委託に関して意見がありました。委託に関してなのですが、3月に行われた意見交換会と第1回懇談会において委託の目標年数に関してつじつまが合わない部分があったのですが、その理由はどうしてなのかと。それに関しましては、意見交換会では当初環境局の方で考えていた5年という目標を述べましたが、その後懇談会では市全体の委託に関する目標である3年に変更させていただきました。

また、委託の方法なのですが、どこまでをどう委託するのか、また委託は市の経費削減のためなのではないか、また、そういった委託、NPOなり企業なり、どこかに完全に委託するといような形を、最初からありきで考えるのではなくて、そのような委託にこだわらず、協働の形、新しい協働の形も考えるべきなのではないかという御意見をいただきました。それに関しましては、先程申しましたように、必ずしもこのような形でどこかに委託するという筋書きがあるのではなく、必要があれば直営という形も十分あり得ます。

今後の方向性は、この懇談会において、皆様との話し合いの中で決めていきたいと考えております。

次に、懇談会に関してですが、この懇談会の位置づけ、環境プラザにおいて懇談会の位置付けはどのような位置付けなのかという質問がございました。これに関しましては、今市が環境プラザを運営しているというのが現状ですので、この懇談会で決定されたことが、そのまま市の環境プラザの運営につながることはなりません。しかし、決定された事項に沿うような方向で、皆さんの意見を反映するようしていきたいと考えています。

懇談会の今後のスケジュールにつきましては、できれば月1回のペースで開催したいというように回答させていただきました。

また、環境プラザの機能について、すぐ近くに北海道環境サポートセンターがありますが、その違いは何かという意見がありました。これに関しまして、北海道サポートセンターさんの方が市民活動さんを対象に活動をされているのに対し、私どもプラザの方では、小中学生を対象にした環境教育などを考えており、小中学生や環境に初心者といいますか、今まで環境に携わってこなかった方々も含め、入ってこれるような役割を担いたいと考えております。

また、北海道サポートセンターさんと協力して環境活動を行ってほしいという御意見も

いただきました。

他に、環境プラザに関する利用についてや、懇談会の開催についてもっと広く周知するべきだったのではないかという御意見をいただいています。第1回の周知の方法に関しましては、市のホームページでの掲載と環境サポートセンターさんのメーリングリストを利用させていただきました。

また、環境プラザ職員の人選基準や、小中学校にパンフレットを配付する目的、また懇談会の内容をわかりやすくまとめてほしいという内容の御意見をいただきました。

では、次に第2回懇談会のおさらいをさせていただきたいと思います。

第2回懇談会は10月2日、オープンして約1カ月後に開催されました。

まず、第1回の懇談会のおさらいをしまして、次にオープンしてからの報告事項を説明しました。オープン時に行いましたイベントに関する報告、そして環境プラザの今後の事業について説明させていただきました。これは、第1回の懇談会で何をどう委託するのかという御質問がありましたので、委託、受託する際の皆様の判断材料として、環境プラザの行っている事業について説明をさせていただきました。

簡単に、その事業の内容を説明させていただきます。

まず、地球規模から身近な環境問題までをテーマに、さまざまな講師が講座を開催するという事業です。環境総合講座。

また、2番目として環境保全アドバイザー制度、これは環境に関する各分野の専門家を市民の観察会、学習会に派遣する制度です。費用は市が負担しております。

また、環境教育リーダー制度は、アドバイザーが専門家なのに対し、こちらの方はボランティアの方々、有志でそういった学習会などの講師をしてくださる方々の制度です。こちらの方も、ボランティアの方々を市民の観察会、学習会で講師をしてくださる制度です。

次に、Kids ISO プログラム、これは小中学生を対象とした省エネ活動のプログラムです。

他にエコファミリー事業、エコライフWEEK事業、こどもエコクラブなどを環境プラザでは行っております。

また、環境局全体で行っている事業として、市長が公約で掲げました二酸化炭素排出量の10%削減を目標としたアクションプログラムというものを考えています。その施策案の一部を説明させていただきました。その内容としまして、さっぽろストップ・ザ・温暖化キャンペーン、またエコドライブ宣言、エコライフ宣言、環境マラソン講座、また市民の皆さんに具体案を提示していただきまして、その内容に関して市が助成を行うという案もございます。

意見交換に移りたいと思います。

第2回懇談会におきまして、どのような意見がありましたかといいますと、まず環境プラザの運営について御意見がありました。環境プラザの最終的な目標についての質問、また懇談会について、懇談会は今後どのように進むのかというような御質問がありました。あと、今は誰でも懇談会に参加できるという形をとっているのですが、この場合、毎回人

が入れ替わるという問題があります。そういった場合に、どう話を積み重ねていくのかという御指摘がありました。これに関しましては、メンバーを限定してしまうと、その選択したメンバーが本当にベストなのか、みんな市民が思っていることなのかどうかの問題があります。今は誰でも参加できるという形で進めていきたいと考えております。

今後につきましては、今後懇談会の中でよい方向性が出ればと考えております。

また、運営委員会につきましては、全然決まっておりません。運営委員会に関しましては、この懇談会の中で方向性が決まっていけばと考えております。

また、展示物に関して御指摘がありました。展示物に関しましては、私たちはこれが答えだからこうしようとはしたくないと考えています。子供たちがなぜだろう、どうしたらいいだろうと思うようにつくりました。今の展示物が100%のものだとは考えておりません。これは皆様から様々な御意見をいただいて、よりよいものにしていきたいと考えております。

また、オープニングイベントへの御質問がありました。オープニングイベントについて、どう評価しているのか。これに関しては、市民からのアイデアがいただけというよい点と、スケジュール調整や、誰がどこまで責任を持つかという役割分担の難しい点があったと考えております。

環境プラザの事業についても御質問がありました。もっと環境に関する情報を流してほしい。また、環境教育リーダーの制度についての御質問、そしてアクションプログラムについてもございました。

アクションプログラムについてなのですが、市民が関われる企画が少ないのではないかと、もっとないのかという御意見がありました。先程紹介した企画なのですが、あくまで案です。アイデアがあればどんどん出していただきたいと考えております。

あと、web版環境家計簿、アクションプログラムのひとつなのですが、これに関しまして、もっと市民が参加するように動機づけを強めたらどうかというような意見をいただきました。これに関しましては、いろいろなアイデアを、広げるためのアイデアを皆様からいただきたいと考えております。

懇談会の周知に関しまして、第1回と同様に御意見をいただきました。

第3回の懇談会を行うにあたって、チラシを置く等、できるだけ広報しますが、懇談会に参加している皆様の協力もいただきたいと回答させていただきました。

また、その他に要望、提案として、アクションプログラムについて、企画にアイデアを出すという関わり方だけではなく、施策の決定に関わりたい。また、横文字などを使わずに、できるだけわかりやすい言葉で話してほしい。あと、次回の懇談会のテーマをあらかじめ知らせしてほしいとの意見をいただきました。これにつきましては、事前に今回周知しております。また、環境総合講座の講師はバランスよくいろいろな方を招いてほしい。あと展示コーナーに関しまして、子供たちが楽しく学べるように、いろいろなやり方があるのではないかと御意見。あと、環境プラザのアンケートについて御意見をいただき

ました。

その他に、参加者から参加者への意見として、よりよくなるようにアイデアをみんなで出していきませんかという御意見や、対立からは何も生まれないので、力を合わせていきましょうという御意見をいただきました。

以上です。

司会者 どうもありがとうございました。

懇談会の開催の趣旨と、それと1回目、2回目の話し合いの内容についてお話しさせていただきました。

今日の懇談会は、これまでと同様に9時までということをお願いしたいと思います。

また、マイクを回します。マイクを使ってお話をしていただければ、きちんと録音ができるものですから、できればマイクを使ってください。

発言のある方は手を挙げて、お名前と日頃何か活動されていれば、その紹介もしていただいて、その後で御発言いただければと思います。

今日用意している話題は、今説明がありましたけれども、展示物についてです。前回の話でも様々な御意見をいただいています。そのお話と、あともうひとつ。前回、懇談会を含めて様々な情報を周知するもっとよい手法がないのか、もっとたくさん来てもらえる方法がないのかというような御意見をいただきました。実際にそれが非常に大きな、例えばサポートセンターさんも同じだと思うのですけれども、これがやはり大きな課題でもあると思うのです。もし時間があれば、これについてもぜひお話ししたいと思っています。よろしくをお願いします。

それでは、今のおさらいの中で、御意見があれば伺います。今の趣旨とか、これまでの開催のお話は、初めて来られた方も含めて、もし御意見がございましたら御発言をお願いします。

特にございませんか。バレーボールの試合も見ないでここに駆けつけていただいているわけですので、ぜひ何か発言をお願いしたいのですけれども。少し漠然としているので、展示物が何かの話をしながらお話しした方がよろしいでしょうか。

清水氏 とてもわかりやすい説明でありがたかったのですけれども、話し合う時間が多くとればいいなと思うので、過去のおさらいは、もう少し短くまとめてもいいかなと思いました。

司会者 他にございますか。よろしいですか。

展示物について前回の懇談会の時にも様々な御意見が出ました。自然環境に関する展示が少ないですとか、メッセージが難し過ぎるですとか、あるひとつの分野に偏った発信ではないか等。

それから、教育リーダーという制度がございまして、そのリーダーとの意見交換会が先週ございました。その時も展示物について様々な御意見をいただいております。やはり自然を観察する角度の展示が足りないのではないかという御指摘が中心だったと思います。そ

れで、もう今はこのような形ででき上がっておりますので、これをすぐにどう変えるかという話は難しいかと思えます。このコンセプトと、今度展示をどうするかについて提案させていただきます。

事務局 環境プラザの職員の黒沼と申します。

資料3に基づきまして、今御指摘あったように、なるべく短い説明に努めたいと思いません。

まず、この展示物をつくるにあたって、私どもが考えたコンセプトを簡単に説明したいと思えます。

環境はなかなか捉えがたいとか、難しいとか、あと身近に感じにくい等といろいろな問題があります。例えば青少年科学館ですとか、下水道科学館ですとか、似たような展示物を持った施設があるのですが、なかなか子供たちに伝えきれないという問題があり、ではどうしたらいいか、私どもで考えたのが(1)のコンセプトです。視覚や感情・感性に訴えることで子供たちにインパクトを与える展示、身近なすぐ理解できるところから入る展示、調べ学習やディスカッションが必要な、あえて答えは用意しないという展示を工夫していく形を私どもは考えました。

機能といたしまして、(2)にあるような6つの機能をこの中で持たせることがいいのではないかと考えました。詳しくは裏面にあるような4つのスタジオ、私どもが勝手に呼んでいるのですが、4つのスタジオからなる展示物が現在構成されております。

2番目に移りまして、今日でオープンから約2カ月が経過しております。その間に様々な来館者、あるいは総合学習の子供たちが来て、様々な反応、あるいは様々な御意見を直接いただいたりしております。それをまとめると5点上げられます。読んでみます。

「来館者が実際に触ったり、感じたり、参加したりする展示物が少ないのではないのでしょうか。」

あと「展示物の内容説明が不足しているため、何を言いたいのかがよくわかりません」。ディスカッションが必要になるような、あえて答えを用意しないという設計のコンセプトが、来館者にこれは私たちに関係あるのねと考えさせるまでに至らずに、これはどういうことなんだろう、あるいはこれは何が言いたいのだろうなど、結局何が言いたいかわからないよねという感じで終わっていることがあります。

次、「子供がすぐに入っていけるわかりやすい展示が少ない」とのことです。すぐ隣に消費者センターさんがありますが、そこではパソコンによるクイズをやっています。クイズが良いとか悪いとかという問題でなく、クイズの目的というのは子供たちにとってすごく明白なのですね。その入り込みやすさと、あと全問正解したら証書をもらえるという達成感、あるいは征服感があって、子供たちは全問正解するまで何度もパソコンの前でピコピコしています。

あと、「札幌の自然を感じられる展示物が少ない」。札幌の自然環境を展示する例えばマップであるとか、そういったものが欲しいという意見です。

最後に「環境の保全のために具体的に自分が何をしたらいいのかがよくわからない」。この展示の中で、具体的に私はどうすればいいのかという部分が伝わってきませんという御指摘です。

このような御提案や御意見があり、課題となっています。

今課長からも話があったのですが、そういった現実をふまえて、私どもの方から、これから展示物をどうすればいいのかを皆さんとお話ししながらつくり上げていきたいと御提案したいと思うのです。

実際にこの展示物を全部一度撤去して、もう一度つくり直すということは、はっきり言って現実的にできません。ですので、資料の3番目、展示物発展企画・作成部隊「つくるーん」(仮称)ということで、正直に申しますと手づくりで何かパネルをつくったり、段ボールで何か立体物をつくったり、子供たちが触れるような教材をつくったりして、それでどういったことを伝えて、さらにそれをどのように展示していくかを皆さんで考え、アイデア練りながら実際にそれをつくり上げていくというような、そんな「つくるーん」を皆さんと発足することを御提案したいと思います。

具体的な方向としましては、一応委員の募集に関しましては、この展示スペースですとか、ホームページなどで呼びかけたいと思っています。

参加の条件としては、責任を持って参加してもらうこと。言いつ放しであるとか、あと1回出てそのままいなくなってしまうとか、そういった形でなく、責任を持って参加してもらうということを条件に、随時受け入れるという形を考えています。例えば、1回目、2回目は参加してないのだけれども、3回目から参加という形は歓迎する姿勢で、この委員会を発足させたいと思っています。

一応期間なのですが、予算的な役所のルールがあるものですから、暫定的に来年の3月までをひとつの区切りとしてこの「つくるーん」を発足して、月1回ペースで内容を検討したい。「つくるーん」は今年度で完成させるまで行くかどうかかわからないのですが、平成16年4月から再度「つくるーん第2号」のような形で再結成して、継続していきたいと考えています。よろしいですか。

司会者 ただいま「つくるーん」の紹介をさせていただきました。断っておきますけれども、展示物はできたばかりですので、それを大々的に直すという予算はございません。それはもう前もって言うておきます。ただ、手づくりのものを企画したり、あと次にどのように直していくかの提案をいただいたり、そのようにつなげていければと思っています。ですからこれ全部を変えるということを期待して参加されるのは、趣旨が違うことを御理解ください。

今の提案や、あと資料にある課題についても含めて、恐らく皆さん御意見があると思うのですが、委員会はこのようにしてほしいという意見も含めて御発言をお願いしたいと思います。

長谷川氏 南区の緑を守る会の長谷川です。

第2次の環境保全協議会の委員をさせていただきましたので、環境プラザをつくってほしいということはすごく強く思っていたのですが、このような形でできたことに対して、少し残念な気持ちもあるのです。

この展示物のことなのですが、今お手洗いに寄らせていただきまして、この間見学させていただいた時も伝えたのですけれども、相変わらず便座の暖房温度がとても高くて、何とかしてほしいと思いました。

使う側のマナーもそうなのですが、いつもふたが開けっ放しです。ふたを閉めて、無駄なエネルギーは使わないようにしなければなりません。私は展示を展示物のコーナーだけだとは思っていません。この建物全体を環境のことに、トイレを使うたびに思うとか、この電気の明るい、すごい電球の数でどれくらい無駄なエネルギーを使っているとか、そのようなことをトイレに座ったら、本当に小さな紙でいいので、あなたがこのトイレのふたを閉めるとどれくらいエネルギーが削減できます。手を洗うところも、手が乾燥するようになるのですけれども、あなたがそれをハンカチで手をふくとどれくらい違うか、そういったことが展示コーナーだけではなくて、この建物に入ってきて考えることができるようなものを「つくるーん」に望んでいます。

エスカレーターも、本当に体の悪いような方とか、そのような方は仕方ないですが、そうでない健康な人は、私も先程遅刻ぎりぎりだったので、階段を探すよりエスカレーターで来た方が速かったので、つい使ってしまったのですけれども、これをあなたがエスカレーターに乗らないで階段を歩いたら、あなたの健康のためにどれくらいカロリーが消費されて、肥満にならなくて病気にもならなくていいかということが本当に建物の至るところにあったらいいと思っています。

司会者 どうもありがとうございます。

林氏 環境教育リーダーの林です。

展示物の件について、小中学生を対象とした、答えを用意しない、疑問を感じさせるような展示というコンセプトだと伺いましたが、これまでに小学生、中学生がどの程度訪れ、またその訪れた子供たちが、その展示物に対してどんな反応を示したのか、資料の2番に書いてあるような批判ではなくて、展示物を見て何かつぶやいたとか、そういったものはどの程度把握していらっしゃるでしょうか。

事務局 不定期にぱっと訪れる子供たちの数はカウントしてないので、総合学習で来た子供さんの数でお答えします。

今のところ10月30日までに小学校は3校、中学校は11校受けています。総合学習で訪れてくださる場合には、私たちがその展示物を使って、これはこういった問題を意味しているとか、これは君たちのこういった生活に関係しているかもしれないねという形で、展示物と皆さんの生活を結びつけるための補足というのですかね、その投げかけの説明をします。それについて、子供たちがうんとか反応します。ただし、一方的な話になってしまうと、だんだん頭がオーバーフローをしてわからないとなってしまうですね。一応入り

口の地球儀で、例えばバッタとかに結構興味を持ってきて、気持ち悪いねこれとか言いながら、バッタと環境問題はどうか関係あるのかという話から切り出したり、ラーメンと環境問題って何が関係あるのかというところから切り出したりと、ちょっと意外なところから突っつきながら環境問題に興味を持ってもらうという意味では、それなりにいい効果を上げているのだと思うのです。ただ、やはり例えば温暖化に触れるとか、体験できるわけではないので、そこから先は、例えば今このような問題が起きているのだよね、こんな問題があるのだよねといった言葉の情報でしかないのです。だから子供たちに、より直感的に、あるいはハンズオンという言い方するらしいのですが、触れるとか、そういったものに関してはなかなか伝えきれてないかなという部分もあります。

林氏 もう少し言わせていただけますか。

子供たちというのは、やはり自分が思ったこと、感じたことを誰かに受けとめてほしいと思うのですよね。それで、パソコンでピコピコやって、必ず反応が来るとというのは、子供にとってとても喜びなのですからけれども、ここはやはりもう少し人間が応対して、人と人との触れ合いを大事にすれば、今の展示物でも随分いろいろなことができるのではないかと気がするのです。そういう意味で、もちろん「つくるーん」については、非常にこれから先楽しい企画だと思えますけれども、今の展示の中でも人が受けとめる、あるいは例えば小さな紙にでも疑問に思ったことを書いていこうねと、ここのボードに張ってみようとか、いろいろと子供たちの反応を大切にすることが今の展示物でもできる気がするのです。

司会者 ありがとうございます。

展示をどう紹介していくかという、その見せ方というのですか、人と人との触れ合いというのですか、それもぜひ「つくるーん」の中で意見を出していただければと思っています。

他にございませんか。

菅原氏 ひまわりの種の会の菅原と申します。よろしくお願いします。

展示物についてなのですからけれども、今宮田課長さんからもお話しあったとおり、「つくるーん」のお話を聞いた時に、今の展示物でも何か発表の仕方があるのでないかと私も感じていて、それで一つ思ったのは、例えばこのようにここに集まっている環境関係で活動されている人たちが、それぞれ好きなものを選んで、私だったらこの展示でこんな説明ができるみたいな発表があったらおもしろいかなという、その専門家がプレゼン、パフォーマンスするか、何かやってみたらいいのでないかというのがひとつ。あと、私には5年生の子供がいて、環境会議というものをクラスでやらなければならないという話を聞きました。ごみか地球温暖化について、どちらかを選んで発表するのだと。授業参観で聞くと、かなりいろいろな資料を用意してプレゼンするのですよね。ですので、子供たちにも、ここにこういった立派な展示物があるので、子供たちにその中から選んでもらって、子供たちがそれを使いながら発表するとか、2つアイデアとしてあるかなと今聞いていて感じました。

以上です。

伊藤氏 札幌地球村の伊藤と申します。

私は、子供たちに直接聞いてみたらどうでしょうと思ったのです。子供たちがここに集まって、どういったところで遊びたいとか学びたいとか、例えば子供たちが集まったところに、難しい顔をした、これはこうでなければいけないとか、何かちょっとおっかない感じの人がいると、あまり子供って心を開かないので、レクリエーションの達人みたいな人がいて、子供たちが集まってゲームとかを通してながら自分の意見を出せるような場所をまずつくって、それから子供たちにどういう場所が欲しいか、どういう勉強がしたいとか、遊びがしたいとか、きっと思っていると思うので、それを聞いてみたらどうでしょう。

以上です。

司会者 どうもありがとうございます。

他に自然の観察等をもっと取り入れるべきだというお考えの方から御発言いただけませんか。

石崎氏 環境教育リーダーの石崎でございます。

ここに札幌市の今自然の状態がどのようになっているかが見れる大きなパネルがあると大変いいなと思っているのです。今市民から、また何人かお願いしてでも、簡単に映像が送ってもらえると思うのですね。それも利用すれば、これは今ここに行けばこんなものが見れるよ、例えば公園でも何でもいいのですよね。もちろん山でも川でもいいです。そういうところが、このような状態になっているのだよということを、ここに来ればその自然の状態がどうなっているかがわかるというか、そんなことをここを起点にして、そしてその場所に行ってみようと思うようなものが欲しいなと思うのです。この大きな壁面を利用できれば、もちろんそれをつくるのにお金が大分かかるのかもしれませんが、どんどんとそういったものができて、そして映像を取り入れることができるようになれば。そのようなことを、この試みは市民も参加してもらいますし、ここへ来た人たちもそれを楽しんでもらえるというか、ここは情報の発信源になるのだらうと思うのです。ぜひそういったことをここでやってもらえればいいなと思っております。札幌の自然は大変すばらしいとあちこちで聞くのですけれども、それをどの程度知っているかは、非常に疑問なところがあります。それで、ここに行けばこういったすばらしいものが見れる、では行ってみよう、そういったものをぜひこの環境プラザにつくってほしいと思っておりました。

それと、今話をしたついでに、小学校、中学校の生徒にここを大いに利用してほしいというお話がありましたが、逆に小学校、これは個人でもいいし、学級でもいいし、学年でもいいのですが、そういったところで自分たちがつくったその環境に関するもの、発表物その他、それをここに展示できるとか、1週間単位でもいいから、それを持ってきて展示できる、そんなコーナーがあったらいかがでしょうか。それは恐らく子供たちがここに来る機会にもなりますし、またそれを広めることにもなります。そんな発表できる場がここがあればいいのではないかと考えております。

司会者 ありがとうございます。

他にどうでしょうか。この「つくるーん」に期待することでもよろしいかと思います。

参加者（男性） 先程「つくるーん」のお話を聞いたのですが、どのようにやり出すのがまだ具体的にわからないのです。予算がないのなら、では3月までにこんなアイデアこんなアイデアと出してもらって、そして具体的にどんなものをつくるのだというのを3月まで徹底的にグループごとに話し合ってもらって、そうすると予算要求ができるのでないかと逆に考えたらいかがでしょうか。

そうお考えなのかどうかわかりませんが、いろいろなグループをつくってとにかくそのように案を、3月では遅いのでしょうかけれども、2月の末くらいまでにはまとめてもらって、そして実際には年度明けたらそれをつくり出すために、そういうグループを幾つかつくれば、途中で参加しても、いやこんなアイデアがある、こんなこともあるってだんだん具体的になっていくのでないかなと思っておりました。

司会者 期待しているのはまさしくそこなのですからけれども、ここで少し市の予算の話を見せてください。

市の予算というのは、通常だと9月頃に来年度の予算の要求をします。今年は少し遅れて今ごろやっているのですけれども、その中で予算が決まって、翌年度使うというスケジュールになります。

もうひとつ、以前にもお話ししたのですけれども、今話しているような内容については、予算要求してもなかなかつけてもらえない。みんなで考えてつくりたいのだと言っても、なかなかつけてもらえないのが実態です。ただ、こればかり言っても仕方ないので、今回私たちが要求しているCO2削減のアクションプログラムでは、かなり柔軟にそんな後から話が出たものも、何とか事業ができるようにぜひ考えていきたいと思っています。金はないが考えてという趣旨ではなくて、私たちも一生懸命頑張って予算取りをします。ただ、期待に沿えるかどうかははっきりした約束はできないのですけれども、そんな意気込みでやりたいと思います。

池田氏 環境省の環境対策調査官事務所に勤めております池田と申します。今日は職場とは関係なく、オープニングでプラザのイベントに参加した一市民として、ひとつ発言させていただきたいと思います。

私はオープニングイベントに参加し、環境マップをつくるということで、この展示物の資料の下から2番目、札幌の自然を感じられる展示物が少ない、札幌の自然環境を展示するマップが欲しいとありますが、オープニングイベントで目指したのがまさにこれです。終わった後にもマップの担当者が集まって、1週間だけで終わらすのはもったいないなという話がありました。ただ、その後それをどうしようというのは、なかなかみんな集まる機会もなく詰められなかったのですが、その中で出た案の中の一つとして、そういった各区ごとに地図でマップをつくったのですけれども、そういうものを張り出さなくてもいいので、例えばどこかに置いておいて、誰か来た時に、ああこういったのがあるなと自分

の近所で何か咲いているだとか、シールか何かつけて情報を積み上げていく市民積み上げ型のマップをここに、展示と言わず常設の形でつくってもいいのではないかという話が出ておりました。

それがひとつと、あと総合学習の話も出ましたが、私の職場によく総合学習の学生たちが来ます。レッドデータブックの動物について知りたいと。あとは酸性雨のシステムについて知りたいと来るのですけれども、こちらの展示物をつくれれば、なぜ動物たちがレッドデータブックに載らなければいけなくなったのかの理由とか、なぜ酸性雨が降るのか、モクモクの煙の中に入っている化学物質の説明とか、目に見える形で説明することができると思います。そういったものを、例えばもう大きくくくって、学級ごとにこちらに呼んで、ここで学級の移動教室のような形でやってもらって、班ごとにあちこち行って調べてくるのではなく、ここから各班ごとに各地に行って帰ってきて、ここですぐ発表できるぐらいの、それであれば例えば半日ぐらいで一学級の総合学習が終わることもできるのではないかなと、ここに来てちょっと考えました。

以上です。

司会者 ありがとうございます。

他に何か展示のことで御発言ございますか。

プラザの運営の話をしているのに、なぜ展示の話なのかと思われる方もおられるかもしれません。ある意味で運営というのが、展示に代表されていくこともひとつの糸口として考えて提案させていただいています。

事務局 展示物をつくりました黒河です。

様々な御指摘があって、様々な御意見も聞いていたのですけれども、実はいただいていた御意見、この資料の意見、それから今の御意見、実は想定をしておりました。大変口幅ったい言い方ですけれども、そうなるだろうと考えて実はつくっています。

私の頭の中での理想というのは、小学生や中学生の子供がここに来て学習をする時、学んでもらう、何かに気づいて帰ってもらうということをととても重要視したのですね。その時に、ではここに子供たちが来て一体何をして帰るだろうか。様々ないわゆる展示物を置いているところはたくさんあるのですけれども、ただ通り過ぎるだけでは、現実には子供たちの心には残らないのですよね。ですから、来年に向けて、これから校長会などをお願いをして、ここを使ってくださいと話をしていきたいと思っています。その時に、お弁当持ってきて、ここで2、3時間逗留してくださいと、そういった投げかけを僕はできたらいいな、それを理想と考えています。30分なり1時間なり展示物を見てもらう。展示物だけではわからないことが多く仕掛けてありますから、そこには説明をする方がついて、これはこういったことだろうとか、それからこれをどのように考えるかとか、そういった投げかけをしてもらって子供たちに考えさせてもらいたい。展示物の目的としては、それがひとつ。

それから、この建物全体、先程最初にお話がありましたけれども、1階に情報センター

があります。隣に消費者の展示物もあります。これらを組み合わせると、調べ学習がここ
の中でできるのですよ。先程お話がありましたように、例えばトイレに行ったら暖房便座
があって、実はそこでも学習ができるというお話がありました。展示業者さんと我々お話
をしている時には、そのようにこの建物の中を探検することによって、エコについて知る
ことができるだろう、そういった仕掛けできないかというのは、実は展示業者さんからも
提案があったのですよ。ただ何せ4施設が供用で入るものですから、すぐにはできない、
少し待ってくれという話を実はした経緯もあるのです。

ですので、展示物だけで話を進めるのでなくて、ここの研修室、これは子供たちが2ク
ラスちょうど入れますから、ここで20分とか30分のワンポイントレッスン、今日は酸
性雨のお話を聞いてとか、あとは1階の情報コーナーへ行くとホームページから何でも調
べられるよ、そのように学習のホームページもつくったつもりです。これらを組み合わ
せて、何かひとつでも持って帰ってもらえれば、ここを利用してもらった価値は出ると。普
通は通り一遍の見学。通り一遍の説明では、ほとんど持って帰ってもらえません。それが
現実です。ですからひとつでも持って帰ってもらうために、この施設全体をひとつの展示
として、あちこちに置いてある本、コンピューター、展示物、それと説明してくれる人、
これらの一体の中で、子供たちに少しでも何か持ち帰ってもらえればというのが正直理想
として頭の中でつくってきたイメージです。

先程やはり自然環境などの部分での話がございました。それは本当に御指摘のとおりで
して、サイズ的におさまり切らないというのが正直ありました。ですから、それはいわゆ
るコンピューターの画面の中におさめたり、それからここには50インチのプラズマの画
面を置きましたけれども、その発展性を確保することで、その中で何とか展開していけな
いだろうか、そのようにできるだけ組み合わせたつもりなのです。我々の方の引き継ぎが
うまくいってなかったというのは、実は事実だろうと思います。そのように考えておりま
すので、今あるものは結構応用性というか、余裕を持ったというか、変えていける素地を
つけたつもりなのです。ですから、この「つくるーん」の中で、そういったものをでき
るだけ生かすという言い方は語弊がありますけれども、上手に使い回すイメージで御検討
をぜひお願いできればと。

私どもも今が100%だとは全然思っておりません。合格点もとれるかどうかのぎりぎ
りのところだと考えておりますので、プラス いっぱい出てくると思うのですよね。そう
いったものを積み上げていいものにしていく、それが本当に協働だと思っておりますよ。そ
れをお願いできればという気持ちでいっぱいです。

神山氏 循環ネットの神山です。

自分で展示を丁寧に見ていないので、こんなことをお尋ねするのですけれども、例えば
札幌市内の様々な環境の様子、自然環境も当然ですけれども、南区のこの辺のところは、
今どんな草花が咲いているだろうかとか、あるいは市役所の横の大気汚染はどうなってい
るのだろうかというのを、いちいちデータのペーパーを見ないでも、ぱっとタッチすれば

出てくるような仕掛けがあるといいのではないかなと思うのです。そういったデータを例えばDVDにでも入れておいて、検索するとそれがぱっと出て来るといった仕掛けは、そう難しくないように思うのです。何かそんな比較的楽に環境の現状を展示できるような、せっかく画面がありますので、利用していただくといいのではないかなと思いました。

司会者 ありがとうございます。

関連してございますか、質問。

角田氏 「つくるーん」という名前は夢があって、クリエイティブな面でもイマジネーションの部分でも、想像力ということを十分に引き出してくれそうな名前だと思えるのです。少し柔らかい話になりますけれども、私がおじさんお婆さんの世代の子供の頃というのは、おもちゃでも、竹馬でも、あの頃プラモデルというものも出てきたのですけれども、ああいった設計図があって、自分たちの手で何かつくるというおもしろさ、そういったものを子供たちに発見していただきたいということと、あと、ここはエレベーターも身体障害者さんの施設もあるので、お子さま連れで、お孫さん連れてこられるお年寄りの方なんかも、子供と一緒に楽しめるような、そういった「つくるーん」になっていけばいいのではないかと思います。

それで、我々の小学校の頃というのは、創造性豊かな教育受けたのですが、だんだん年齢が上がるにつれて、受験勉強というものがあって、知識偏重主義の中でドロップアウトしていく友人たち、私もその一人なのですが、そういった過程もありまして、あまり札幌市、北海道、日本のこれからの将来を担っていく子供たちには、できるだけそういった思いはさせたくないわけです。健全に健やかにものをつくる喜び、楽しみというものを、世代を越えて分かち合っつけていくことが大切なビジョンではないかなと思っています。また後程にも発言する機会があったらよろしくお願いします。

言い忘れましたが、第四次札幌市環境保全協議会の角田と申します。委員をやっています。どうぞよろしく。

司会者 ありがとうございます。

先程神山先生から発言があった、市内の観察の状況が一目でわかるような仕組みについて、何か回答ありますか。

事務局 実は、手軽にという観点からだと少し難しいのかもしれないのですが、ホームページがありまして、その中で、まだデータがそろっていないのですけれども、例えばこの地点をクリックしたら、ここでこんな花が咲いているよとかを、私たちだけでなく市民の皆さんも自分で投入できるような仕組みをつくってはいるのですよ。ただ、そのホームページに入り込むその手順の手間等がありますので、一見してわかるというようなものとなると、難しいという部分はあります。

清水氏 「つくるーん」でもものをつくっていく時に、有志で月に1回集まって話し合っで悩んで決めるのもいいのですけれども、できればつくる段階で子供の参加があれば、もっと気づきというものを、こちらも気づけるのではないかなと思うのですよ。公園で遊び場

をつくろうというので、一度子供たちと一緒に、ではワークショップやってみよう。割と大変だったのですけれど、もう走り出すし。でも本当にこちらが気づかされたのですよね。ああこういうのが楽しいのだよな、そうだよなという気づきがこっちにもあったので、そういった機会ができればすごくいいのにと思いました。

司会者 ありがとうございます。

展示の話、そろそろよろしいですか。どうぞ。

東氏 札幌市の環境保全アドバイザーをしている東と申します。

実は、私は展示を見てないので発言ができないかなと思っていたのですが、ここに何度も来ているのですけれども、5時15分で閉まっていますよね。私は昼間働いているものですから、夜かもしくは日曜日しか来れないので見れないのです。将来見れるようになるのでしょうかということがひとつです。

それともうひとつは、今ここの子供たちが多く利用しているということなのですが、数字としてどのくらいの人が、このくらいの年齢の子供たちがこのくらい利用しているとか、1日これだけの人が来ているとか、年齢的にはこういう人が来ているとかという、そういったデータがあったら教えていただきたいと思うのですが。

司会者 夜も開けたらどうかという御指摘ですけれども、やはりニーズと、その実際かかる費用との兼ね合いというのですか、何でも間口を広げてもいいかという、そうではないと思うのですよね。どの点が一番理想的なのかと思うのですけれども、今は日曜日も土曜日もずっとやっております。ただし、5時15分までです。それで、今のところ考えてはいませんけれども、そういったニーズがあれば、例えばこのような団体が来るから開けてくれないかとか、それは十分検討する内容でないかと思えます。

あと、入っている人数について。

事務局 大体、今は土曜日がサタデーデーリングになっているので、子供たちの入り具合はかなり高いです。その割合が一日に大体100人ぐらいの数は来ています。多い時は、初日はもっと200人とか、それぐらいの数で動いています。ただ、本当にスタンプを押していく形での出入りになっていますので、時間がある子たちについては、展示物を見ていたりしています。ただ、あとそのサタデーデーリングで何かできないかということで、読み語りをしたり、あと教育大学の環境教育を専攻している学生さんたちと、2時間ぐらいなのですが、ここの場所を使いましてクイズをやりました。その時は、サタデーデーリングに来ている子供たちが30名ほど2時間ぐらいの拘束だったのですが、実際に楽しんで帰って行きました。ただ、普段の総合学習以外で、9時から5時15分の間、開館している間に子供が出入りするというのは、基本的に月金ではありません。この辺は北9条小学校や中央小学校に近いので、そこに住んでいる子たちがちらほらといらっしやるかなというくらいの動きしかありません。

あと、実際に大人の方たちなのですけれども、様々な皆さんからの御協力を得てチラシを置かせていただいています。ですので、情報入手したいとチラシ取りにお越しになっ

ている方たちが、1日に大体20人とか、多い時では30人くらいいるという状況です。ただ、ここは消費者センターや男女共同参画センターと一緒に入っています。そこで様々なイベントがあって、ここの施設自体に出入りがありますと、かなり2階も通ってまいりますので、その中で展示コーナー等を見てくださる利用者は多いのかなと思います。受付に座って見ていると、環境プラザ目的でお越しになっているというイメージは、感覚的にあまりありません。そこが悲しいところです。あと実際にスーツ姿の方がかなり出入りしてしまっていて、事業者の方もちらほらお越しになっている様子が見られます。あまり想定はしてなかったのですが、その事業者の方たちにもご覧いただけるようにと思い、情報もなるべく提供していました。スーツ姿の方たちが日中お越しになるということも出てきています。ただ、全体的にはやはり目的を持ってという形では、まだ少ないと思っています。

数は、今統計をとっていますので、皆さんにお教えすることはできると思いますけれども一応簡単に御説明しました。

浅田氏 環境り・ふれんずという市民団体で、宮の沢にありますリサイクルプラザを4月から受託しました。環境プラザができましたから、ごみ減量とリサイクルを中心に、特にその点を強調して、わかりやすく機能的に差別化して発展させようと思っています。

ひとつは、この環境プラザさんはまだオープンしたばかりです。サタデーテリングのポイントについても、私どもはきっと石屋製菓のクッキーを作るついでに寄ってくれる等ありますし、もう丸3年経ちましたから、1日350以上は来ます。朝から並んでいて、そういう点では、やはりひとつはもっとみんなで知らせることだと思っています。開館時間は、宮の沢はちえりあという生涯学習センターが夜遅くまで開いていますので、その関連で7時までになっているのですが、6時から7時までの間は、この半年間平均して5人なのです。5人に2人か3人の職員を置くという費用対効果の問題というのは、やはり税金事業ですので、私どもは市民の側でどう考えるかの問題提起をして、来館者に今アンケートをとっています。こちらは一切年末年始以外休みなしでやっているようですが、私ども宮の沢の方は、月曜日は休館日です。日祭日はやっていますが、私どもはむしろもう少し効果的に6時ぐらいまでに短縮し、限られた費用を有効に使っていきたくて提案していて、先程の東さんの御提案と若干ずれてきます。ですから、ここも積極的に見てもらうという工夫やいろいろなお知らせをすると同時に、徹底的にやるのならむしろ9時までやって、もっとたくさん使える運営にしてほしいという市民の要望を受けるか、どちらかにきっちりしていくべきです。だからそういった点では、ぜひ何を期待し何を実現するかということと一緒に、事業の内容を整理していく必要があると思っています。

司会者 どうもありがとうございます。

いかがですか、他にございますか。

参加者(女性) ここの屋上は使うことができるのでしょうか。私この間見学に来た時は、そこまで行っている時間がなかったのですが、太陽光発電があるという話は聞いてお

ります。屋上で何かをしてもよろしいわけでしょうか。

司会者 何かをするというのは、見学やそこで事業をという意味ですよ。

参加者（女性） 展示物にコンポストがあるのは見たのですね。あのコンポストは、ただこういったコンポストがありますよというだけなので、私も子供たちにコンピューターとかそういったものを見て感じてもらうというのではなくて、やはり手で触れて、においをかいで、考えて、感じて、それで家でもやってほしい、学校でもやってほしいという思いがあります。この屋上で今考えているのは、コンポストとビオトープなのですけれども、そのようなスペースで、来た子がちょっとごみをかき混ぜてみるとか、これが前に来た時のごみで、それが今はこうなっていると、そのようなことが体験できるといいなと思ったので、もしできたら使わせていただきたいなと思います。

司会者 率直に言いますと、今の段階で難しいと思います。というのは、屋上は札幌市だけの持ち物ではなくて、このビル全体の持ち物になってしまうのですよ。それで、今太陽光パネル置かせてもらっているのですけれども、その代わりとして太陽光パネルの発電した電気をこの建物にただあげています。だから屋上をただ使わせてくださいという交換条件で使わせてもらっているのです。だから太陽光パネル以外の使い方をしていたら、札幌市側はそれに見合うだけのお金払ってくださいねと、ビルの建物の管理組合からは当然言われてしまうのですよね。

参加者（女性） それでしたら食い下がりがまして、ビルから出る生ごみを処分しますので使わせてくださいということで頑張れないでしょうか。

司会者 具体的な話を持っていく必要があると思うのですよね。可能性だけのお話なのか、漠然と今言ったように、あそこに見学者が常時たくさん出入りできるような状況でもありませんし、そこまでどうやって生ごみを上げるのかとか、においはどうするのだとか様々な副次的な問題を考えて、具体的にした中で協議していく必要がある課題だと思います。

今単純に屋上にそういった重いものを乗せて、風等の影響、飛ばないようにきちんと壁をつけたり、荷重やなんかの計算もしなければいけませんし、そういった具体的に考えた上での話ではないかと思います。

参加者（女性） 本当に食い下がって申し訳ないのですけれども、やはりこの同じビルに、このように合同で建物の中に入った以上、ここを変えていくのがやはり環境プラザだと思うのですね、私は。その入った企業がこうだからこうだからというのを、やはり市民も交えてもう少し環境をお互いに考えていく場にしていくのが大切でないかと思っています。

司会者 御意見はわかりました。ただ、今言ったようにごみも、簡単にここのごみを集めて上に持って行って処理ができるかという、これはまた処理委託の問題とか、やはり解決すべき課題というのはあると思うのですね。

参加者（女性） そこまで大げさに考えないでいいのですよね。子供が少し何かやるの

に、勉強するのに少しやらせてもらえないかという程度で、全部のどれくらいの企業からどういう生ごみが出ているのかわからないのですけれども、子供たちに考える場を提供していくのも企業の責任も片方にはあるのでないかという、そういった意味でして、すごく大がかりなものを考えているわけではないのです。

司会者 趣旨はわかりました。

岡崎氏 循環ネットワーク北海道の岡崎と申します。

非常にささいなことをお伺いするのですけれども、作成部隊「つくるーん」で、この3月までどれぐらいの予算で、どのように進んでいかれるのかが少し気になりましたので教えてください。

それからもうひとつ、先程建物自体が展示物というお話がありましたね。トイレの暖房便座のことは私も気にはなっていたのですけれども、それ以外に階段に行きますと、あれはセンサーになっていて、普段は30%の照明なのだけれども、人が近づくと100%になるとか、すごくいいものがあるわけですね。だからあそこに行ったらああいうのが見えますよとかのお知らせや、そういった表示がしてあると、ああ結構工夫しているのだなとわかると思います。

それから、私はこっそり屋上の太陽光パネルを見せてもらったことがあるのですけれども、月に1回とか、時々こういったのもありますよと見せていただけるようなツアーがあったり、それから伊藤ビルでしたっけ、あの上にあるタワーみたいな太陽光パネルも見えますよとか。太陽光パネルは合同庁舎にもあるのですってね。この辺のそういったものをPRするとか、様々なことがここを使ってできていくので、その辺のアイデア募集、「つくるーん」もそうなのだけれども、それ以外のアイデア募集とか、それから入っている4施設で、これをどう生かしていこうかという作戦会議をしたりとか、それから先程お話があったように少しずつ、ここ自体をエコ化していくための作戦会議等でアイデアを考えてくださいとか、どこか何かできることがあったら教えてくださいとか、様々なことができると思うので、先は長いと。一、二年でできるとか、誰も思っていないので、長い時間をかけて少しずつこのように変わっていくというプロセスを楽しみながらやっていかれたらどうかと思いました。

司会者 まず、予算がいくらあるかについてですが、とても大きな声で言える話ではないのですけれども、事前にこういった予算があったわけではないことは、先程申したとおりです。ただ、アイデアだけ聞いて何もしないというのは悪い話になりますので、そんなめっちゃくちゃ高い話が出てこない限りは、いろいろ努力する形はあると考えています。

それと、いろいろとアイデアを募集してビル自体を巻き込んだらどうだろうか、多分先程の方もそういった御発言だったと思うのですけれども、誰もその発言に反対する人はいないと思うのですよ。それが具体的にどうやってやるかとなると、やれこれだとか、先程私が言ったみたいに、それは廃棄物法違反ですよとか出てくると思うのです。やはりその辺も、そういったアイデアと同時に、その検討した課題と、そして具体的にどうするの

だということまで結びつけて考えていく必要があるのではないかと思うのです。

それで、先程の展示の委員会についても全く同じことで、責任を持つ、必ず来れる人という、あえて注文をつけさせていただいてます。それは、今言った話なのですよね。ただアイデアだけこういったものこういったものと言うのではなく、やはりそこが実現に結びつくにはどうするのかも、一緒に考える部分ではないかと思います。

岡崎さん、答えになったでしょうか。

岡崎氏 両方いると思うのですよね、コアになってしっかり考えて進めていく人もいるし、好き勝手なことを言って刺激するような人もいるし。だからあまり責任を持って参加してもらうことを条件に出すと、人によって取り方がいろいろあって、最初は責任を持ってやるぞとか思ったら雰囲気が悪いから途中でやめるといった人も出てくるわけですから、その辺はいろいろかなと思います。

司会者 御発言のとおりですね。確かにこのように言ってしまうと、誰も参加していただけなくなってしまうので、全くそのとおりだと思います。

これに関連して何かございますか。

菅原氏 今日2度目になります。ひまわりの種の会の菅原と申します。

今予算の話になりましたが、私の会の代表から突然資料を渡されて、これを話せとせつ突かれましたので、少しお話しさせていただきます。

実は、市民活動促進サポートセンターというところで、私の会の代表が今働いているのですけれども、そこで、例えばこれをすぐ来月使えという意味ではありませんが、元気活動プロポーザル事業という公募をやっているのですよね。この中で、市民活動団体と市との交流連携というテーマで公募がされていて、11月末まで、当たると40万円という事業があるのですよね。これもあと1カ月の話ですからどうこうというのではないのですけれども、こういったものも活用したら、少しはお金を確保することもできるのかな。環境局さんが全部予算要求して用意するというのは大変だと思いますので、こういった事業に予算がつかないのもあると思いますので、こういった他のものも活用するのも、一緒にみんな考えてほしいのではないかなと思いました。

それと、3回も発言したら怒られるかなと思うので、2回目にひとつ混ぜたいのですけれども、今日この懇談会を進める上で、管理運営をどうするかという議論と並行して、実は何かみんなで事業をしたらいいのではないかということをお話ししようと思っていたのです。そうしたら、まさしく市役所さんの方から、「つくるーん」という提案があって、ああこれだこれだという気になったのですよね。こういった体験を何か積むと、よりお互いの信頼関係というのはできてくるかなと思いました。

それと、それを話しする時に、自分も何か考えてなければだめだなと思って、僕が考えてきたのは、先程お話もありましたけれども、黙っていても100人ぐらいの子供が来るというサタデーテリングを放っておく手はないなと思って、毎週土曜日というのはなかなか大変ですけれども、いろいろな団体の方がいるわけですから、月2回でも月1回でも

いいと思うので、何か実行委員会をつくって、1団体1回だったらそれほど負担にならないと思うので、何かやっていったらいいのでないかなと。

もう既に北海道環境サポートセンターさんでは、そういったボランティアさんを集めてやられているようですし、何かそういう事業を通して、一緒に何かやることを通して運営を考えていけたらなと感じました。

以上です。

司会者 ありがとうございます。

サポートセンターの久保田さんから何か御発言はございませんか。

久保田氏 サタデーテレーリング担当のスタッフが来ていますので、詳しくはそちらから。

それで、その話とは違うのですけれども、今菅原さんが言われた一緒にやるというのがポイントだと思うのですよね。私たちも最初の頃は私たちだけで一生懸命頭ひねって考えていたのですけれども、今ではほとんどセミナー等は共催でやっているのですよね。それは人手が足りないとか、あるいは複数の団体でやった方がより広報できるとか、そういった実利の面はもちろんあるのですけれども、私たちがそこで何よりもよかったと、その方針でこれからもそうやっていきたいと思っているのですけれども、それはやはり一緒にやって細かいやりとりをしないと見えてこないことがたくさんあるのですよね。それは、その行事をやることのねらいも含めて、例えば環境のためにこういったことをやりましようと言えば、総論では誰もそれを反対はしないのですけれども、いざ同じテーマで一緒に組んでやってみると、お互いのその考え方とかスタンスの違いというものが、そこで初めてわかってくるわけですね。それをとにかく続けないと、見えてこないものがたくさんあると思います。

私たち自身も、今出たサタデーテレーリングを使って、来月ここで、環境プラザさんと共同で初めて一緒に事業をやってみようという企画の準備を進めています。そういったことを、とにかく我々もこれから一緒に続けていきたいと思っています。

サタデーテレーリングの話について、詳しくは担当から。

山本氏 サタデーテレーリングの担当です。

2年間担当でアクティビティーをつくって、ボランティアさんとやりとりをしていました。2年間程は久保田の下について離れていたのですけれども、また「温暖化ふせぎ隊」ということで、先程久保田が言ったように、こちらに出張してやらせてもらう形になっています。サタデーテレーリングについては、私どもでも一昨年ぐらいからですかね、団体さんと組んだり、私たちとつながりがあるボランティアさんを組み込んでやったりしました。実際に僕たちスタッフも当然なのですけれども、実際当日運営したりとか、その準備とか話し合いとか、その中でしかわからないことが結構多くあったりして、それが大事かなと思います。

あと、多分こういったことをやっていくのは、全部そうだと思うのですけれども、やった終わった良かったねではなくて、評価とか反省とか、そこまで含めて考えるのが大事だ

と思います。以上です。

あと子供の反応なのですけれども、おもしろかったとか、勉強になったとか、その部分は結構分析が難しいと思いますので、多分こちらが最初にちゃんとした目標を立てて、それにどれだけ近かったものがあったかとか、そういったことを含めて評価していくのが大事だと思います。

以上です。

司会者 どうもありがとうございます。

浅田氏 宮の沢のリサイクルプラザのサタデーテレーリングの中身を説明しませんでした。

去年までサポートセンターでボランティアしていた人のアイデアもかなり入っていると思うのです。だからそういう点では学んでいて、10月から始まりました。第2と第4はゴミガーが出る。評価は子供たちの反応でやろうということなので、今勝手に大人たちの思い入れでやっています。札幌オリンピックの時にこんな小さかった、卵みたい、ひよこみたいだったゴミガーが、そしてカラスをもじったような何かおばけみたいのがあって、一昨日の8日土曜日には、こんなに大きくなっちゃった、でも本当は泣いているという、ゴミガーの涙という紙芝居のような、大きな絵本のようなものをつくりました。スタンプラリーには350から450人ぐらいの人数が毎土曜日に来ますので、できればその2割ぐらいの子供たちは少し留まってもらえるようにと思っています。子供たちはスタンプを押したら次のところへと、先を急いでいるわけです。その先を急いでいる子供たちをどうやって引きつけるか、良いか悪いかわからないけどみんなで考えて、邪道かもしれないから、ちょっと評価が難しい。私たちの中でも意見が分かれています。その引きつけた子供たちにそれを見てもらって、ごみを減らすにはどうしたらいいかの提案を暇な子供からももらうようにしている。その子供たちがどんなことを言ってくれるかということをもとに、私たちができるだけ、未来の長い子供たちにごみ問題を伝えないと、環境が守れないねとみんなが一致したので、何とか反応をつかんで、それがうまくいけば来年は幼稚園とか保育園とか、若いお母さんに出会うことを目的として、子供たちと出会っていくようなメニューをつくっていかうと考えて、今模索が始まりましたから、もしよければ見に来ていただいて率直な御批判をいただきたいと思います。

丹羽氏 東区の丹羽と申します。

「つくるーん」について、先程子供たちにもその企画から参加してもらおうという意見がありました。が、「つくるーんジュニア」とか、そういったものがあるととてもいいなと思って。

あと先程岡崎さんも言われた、ここにこんなものがあるよというのも、子供の目線の高さでそういったものが見えてくると、子供たちがよりそれを実感して体験して、それをまた家庭に持ち帰って家族で話ができたりして、すごくいいなと思って聞いていました。

あと、企画をしていく中で、子供たちが参加して、その子供たちがその成果を喜ぶといいのでしょうかね。子供たちは景品が欲しいわけでも何でもなくて、例えば全問正解し

て、賞状が欲しいというだけではなくて、全問正解したその名誉、喜びが多分子供たちが欲しいものだと思うのです。子供たちに向かってその企画をしませんかという発信をして、応募してくれた子供たちに対して、とても立派な表彰状が出るとか、そんな楽しめる提供というか、提案をこちらからしていけると、もっとみんなを巻き込んだ企画になっていて、より発展性と子供たちが体験できるものになっていくのではないかと考えています。

以上です。

司会者 どうもありがとうございます。

他にございませんか。

展示の話は、この「つくるーん」への期待が大きくなっていて、かなり多くの人に参加していただけるのではないかと期待しています。

藤野氏 手稲区から来ました藤野です。

サタデーテリングで来る子供さんたちが多いということですが、札幌市だけではなくて、他の市ですとか、結構環境に関心を持っていて、ISOをとっている小学校とかあると思うのですね。そういった小学校の様子というか、やった成果というのかな、それについて子供たちからビデオレターみたいなものをマルチスクリーンでしたか、何かあるとおっしゃっていましたよね、テレビみたいなもの、それでサタデーテリングの時に映像で流したりすると、自分たちと同じような年代の子供たちが取り組んでいる、他の市では環境にいいことを取り組んでいるとか、そういったことがわかると、よし何か自分たちもできるのではないかと思ったりするのでないでしょうか。札幌市だけでなく他の市ですとか、そういったところとの情報交換もできる場になったらいいのではないかと感じました。

司会者 ありがとうございます。

この「つくるーん」を早速開いていきたいのですけれども、日中に開催したら参加していただけるとか、夜の方がいいとか、そういった御意見ございますか。

急に静かになりましたけれども。

最初は日中に開催しようと思うのですが、いかがでしょうか。

岡崎氏 「つくるーん」昼の部とか「つくるーん」夜の部とか、例えばA班、B班でやられたらいかがかなと思いますけれど。

司会者 確かに夜と昼では、恐らく来られる方も違うと思いますが、他に御意見ございますか。A班、B班に分けてできるかどうか自信がないのですけれども、交互にやるとか。

清水氏 すみません、ずっと名前を言うのを忘れていたのですけれども、北大で森林を勉強しています清水あやと申します。

コアで動く分には、例えば日中だとか夜だとか、それは話し合っていっていいと思うのですけれども、簡単な作業で、子供たちがあれ何やっているのだろうと思えるような作業の部分だったら、サタデーテリングにぶつけてしまうのも手かなと思いました。

司会者 わかりました。

1回目は日中に声をかけてみます。ぜひ皆さんの中からも参加をお願いいたします。

それと、少し時間があるようです。本当は運営の話をしたいのですが、ずっと皆さんの意見を聞いていますと、ある程度、意見の形が見えてきたなと私自身は感じています。個人的には、あるところに意見がまとまってきているのかなと思っています。

それで、次回は、できたら運営の話に少し入っていきたいと思います。特に、実際にNPO等で委託を受けている人たちの情報等も含めて紹介をして、話題にしたいと思っています。

あと、前回に指摘を受けました、集まりが非常に悪い、どのように広報しているかについて、経過も含めてお話をさせていただきます。

確かなかなか集まっていられない、どうしたら集まっていられるかということが、我々の本当の課題です。今回はチラシをつくって区役所に置いたり等、そういった一通りの作業はしたのですが、恐らくこのチラシを見て来られた方はいらっしゃらないですよ。第2回の懇談会で、相当な枚数のチラシをあちこちに配ったり、置いたらどうだと指摘がございました。それで今回私たちもチラシをつくって、今日の懇談会について知らせるためにかなり置いたつもりです。ただ、その結果はこれです。

情報の発信の仕方、どうやったら来ていただけるのか、話がおもしろくないからだという御指摘も前回受けましたけれども、人を集める方法について何か御提案の意見ございませんでしょうか。

岡崎氏 今課長がおっしゃったように、何かあるところが見えてきたというお話をなさっていましたが、それでまた新しい人が来て、それは前回から見れば、今日はたくさん人が増えたという気がしているのですけれども、前回はもっと少なかったのです。この資料に27名と書いてあるのですけれども、市の方が半分弱ぐらいだったので、一般の方は16名ぐらいかな。どうして数えているのだという感じなのですけれども、前回より随分増えたという印象なのです。ただ、結構話がまとまってきたところに、また新しい方が来て、何か居心地が悪かったりというも嫌かなと思いますので、周知の方法を考えるのもひとつの手かなと思うのですけれども、先程サタデーテーリングをやる時に、市民との共催、団体との共催と一緒にやって細かいやりとりをすることで見えてくることがあるというお話や、事業を一緒にやったらどうですかというお話もあったのですが、それと同時に、この懇談会の運営、事務局を全部市の方たちがやるのでなくて、市民の何人かと一緒に事務局をして、だからといってその市民が思っている方向に行くのでなくて、みんなから公平に意見を聞くためにどう知恵を出してお互いに協力していったらいいか、そういった実行委員会なり何なりをつくって運営されていく、そうしたら人集めの苦労は市だけではなくて、そこに関わった団体なり、市民の苦労にもなってくるので、ひとつ違った方向に進んでいくのでないかなという気がしているのですけれども、いかがでしょう、皆さん。

司会者 関連して御発言ありますか。

新保氏 ひまわりの種の会の新保と申します。

今の岡崎さんの運営に関する意見には、全く同感です。展示物のお話がたくさん出てい

て、なぜこういった展示物をというお話が出ていたのですけれども、もしかして展示物をつくる時に、最初にこういった形の場を設けていれば、同じものができていても、実はみんな満足したものができたかもしれない。だから、ここに市民がこういった形で参加する場ができたということ自体が、今回はすごく有意義かなと思っています。ただ、今まで出てきていた御意見というのが、結構具体的な御意見ですね。子供が参加する仕組みをどうしたらいいとか、細かい手段の部分であったりします。でも例えば3月までの懇談会で、この手段を詰めていくというよりは、やはり大きな方向性をみんなで考えて、その中でこういった手段があるのかということ、やはりみんなでその方向性を決めたり、でもそのためには例えば固定的に人が参加してほしい、抜けないでほしいということであれば、固定的に通うための例えば交通費であったりだとか、何かやはり人が動くことによる予算というか、お金がかかったりしたりしますよね。それで、先程こういったひとつのアイデアとして、元氣プロポーザル事業も利用できれば、そこである程度の予算もつくので、市民の人も行政の人も同じテーブルで、心おきなく意見交換できるのかなと思ったりもしたのですが、少し期間的に短いので、これに間に合わないにしても、同じテーブルでやはり意見をぶつけ合うというのは、とてもいいことだと思っています。

それと、ただその昼の部の夜部の部のお話が出ていたのですけれども、具体的に今意見を出してくださった方は夜の部の人たちだと思うのですよね。ですから昼の部で出た意見を夜の部の人も共有して、そこからまた発展していけるとすごくいいと思いますので、その共有する手段ですとか、そういったことを誰がとりまとめをしていくか等も含めて、ざっくりばらんにできたらすごくいいなと思いました。

司会者 どうもありがとうございます。

関連して御発言ありますか。

今のお二人からの御発言についてですが、この環境プラザは、運営委員会をつくって運営しなさいと提言書に盛り込まれています。運営委員会をつくって運営を考えていこうということが、ある意味では大きな課題になるかと思います。そこには、やはり代表したメンバーしか入れませんし、市民を代表するということですか、誰でも出れるという仕組みには恐らくならないかと思います。

それと、今年の3月ですか、意見交換会があって、そして懇談会の1, 2, そして今日3回目ということでやっているわけですが、最初はやはり様々な意見が出てきました。今、やっとあるひとつの形、同じ情報を、意識を共有しようというのが、この大きな懇談会の目的だったのですが、これまでやりとりをした中で、ある意味で大体意見のイメージが今回の会ようになってきているのではないかという感想を持っています。別に何かにまとまっているという意味ではなくて、誰かが手を挙げて司会なり、リーダーシップを発揮してこの会を続けるのもひとつのやり方だと思います。

次回、もし皆さんがそうお考えであれば、それもひとつの方向ではないかと思います。ただ、何度も言うように、最終的には、そのあるメンバー、委員会のメンバーにバトン

タッチしていく形について、まとめるのではなくて、発言を出し尽くしていただきたいという、そういう意味です。この懇談会はそう位置づけています。

どなたかいませんか、こういった誘い方はないのかもしれませんが、次回そのような提案もできるかどうか考えてみます。

それと、先程、また人が変わってしまうことについて、この懇談会はそれでもいいのかということに関してですが、それが目的、そういった様々な人の意見を聞こうということがこの懇談会の目的と御理解ください。

参加者（女性） ただ、継続している人たちがいるから、それなりにプラスアルファになっているという部分もあるのかなと思うのですね。だからその辺の継続している人たちを生かしながら、活かしながらというか、その人たちも入っていきやすいようにするための工夫がもう少しあったらいいのかなと思ったものですから、老婆心ながらお話をしたのですね。

もうひとつ聞いていいですか。次回はいつごろを予定されていますか。

司会者 前回、指摘を受けまして、実は今日、日程とその時の話題もお話したいなと思っています。

年を明けてしまうのです。年末にしづらいものですから、年を明けた1月15日、木曜日です。時間も19時から21時のこの時間にやりたいと思います。この時には、少し運営の話ができればと思っています。その時に今岡崎さんがありました、そういった誰かリーダーシップをとっていただける人がいるのであれば、その方に任せるということも含めて検討をしたいと思います。

このことで何か御発言ございますか。

参加者（女性） せっかく新保さんから「つくるーん」に補助がつく仕組みがあると教えていただいたので、今日お話をされた方は、「つくるーん」に賛成だったらぜひその予算をいただいたらどうかと、お金のない主婦としては思いましたので、それを今ここで申請するかどうかを、この場の人で決めてはいけないのでしょうか。

司会者 今回の「つくるーん」は、市が先導して提案させていただいている事業です。プロポーザル事業は知っていましたが、市の事業に市から補助金をもらって、そのために他の人がもらえないこともありえますので、まず内部で話をさせていただきませんか。そのくらいの金額でしたら何とかないのでないかということが裏にはございまして。すみません、今、口が滑ってしまってバックから怒られております。

他に御発言ございませんか。では次回も含めて、次回そのようにやらさせていただきます。

今日お約束の時間の9時になりましたので、御発言がなければ、これをもちまして第3回目の懇談会を終わりたいと思います。

今日は出席いただきまして、どうもありがとうございました。